

# 令和5年度 第57回 通関士本試験

## 総評と科目別の分析

### 1. 総 評

今回の通関士試験は、例年並みといえる内容であったが、2科目目が相当に難しかった。

第1科目目（通関業法）は、最近では最も解き易く、6割は十分達成できるものであった。

第2科目目（関税法等）が今回の試験では最大の難所ともいえる内容で、相当に厳しい問題が含まれていた。特に「複数選択式、第6問～第15問」に難問が多く、例年以上に難しかった。

第3科目目（通関実務）は、難易度は例年並みだが、問題文を正確に読むこと、貨物分類知識や過去問学習の重要性を強く感じさせるものであった。

全体としては、難しい問題と易しい問題の差が大きく、取れる問題を確実に得点することが重要であった。

### 2. 科目別の分析

#### 通関業法

最近の傾向通り、通達からの出題も多かったが、過去に出題されている項目がほとんどであり、過去問を十分にこなしていれば、高得点が狙える内容であった。特に、語群選択式（第1問～第5問）は、出題可能性の高い項目が順当に出題されていた。

#### 関税法等

語群選択式は、第2問及び第4問がかなり難しかった。ただし、その他は解き易い内容であったと思われる。2年連続して**特惠関税**（関税暫定措置法）から出題されたことも注目点であった。

しかし、**複数選択式**は（第6問～第15問）、例年より相当難しかった。特に第7問、第8問は難問であった。**択一式**（第16問～第30問）は、一部（第18問等）に難問はあったが、全体的には**正解肢の判断**はし易かったので、ここで点数を稼ぎたかった。「0」がなかったのが特徴的であった。

#### 通関実務

輸出入申告書は、繊維と食材という、過去に最も良く出題されている品目からの出題であり、過去問をこなしていれば、**点**が取り易い問題であったが、「**関税率表解説**」の読み取り等、ここ数年の傾向が踏襲されていた。問題文をよく読んで、**見落とし**をしないことも重要であった。

一方で、**複数選択式・択一式**は、資料を読み取って判断する問題（第6問、第7問、第17問）がここ数年の傾向通り出題されたが、**貨物分類**については、最近の傾向通り**知識を問う問題**となった（第5問、第14問、第15問）。例年出題されていた**事前教示の問題**がなく、久しぶりに**解釈通則等の判断**の問題が出題された（第4問）。

**計算式**の出題の内訳は、課税価格の計算3問、関税額等の計算2問であった。消費税等の計算が出題されなかったため、例年より時間をかけずに解答できたと思われる。全体的にそれほど厳しい知識は問われておらず、冷静に判断すれば**得点できる内容**であった。

今回に関しては、前年と同様に**申告書と計算問題**の出来が**合否の分かれ目**であると思われる。